

第29回京都市元離宮二条城保存整備委員会 摘録

1 日時：令和7年4月21日（月）午後2時～午後3時

2 場所：二条城内大休憩所レクチャールーム

3 出席者

（1）委員（8名中7名出席）

- | | | |
|---------------------|-------|---------|
| ・京都芸術大学（瓜生山学園）名誉教授 | 尼崎 博正 | 委員（座長） |
| ・京都女子大学名誉教授 | 斎藤 英俊 | 委員（副座長） |
| ・元京都市文化芸術担当局長・一級建築士 | 奥 美里 | 委員 |
| ・成安造形大学学長 | 小寄 善通 | 委員 |
| ・東海大学教授 | 小沢 朝江 | 委員 |
| ・嵯峨美術大学客員教授 | 根立 研介 | 委員 |
| ・京都美術工芸大学名誉教授 | 村上 隆 | 委員 |

（参考）欠席：京都大学教授 岩崎 奈緒子 委員

（2）事務局

- | | |
|-----------------|--------|
| ・同 元離宮二条城事務所 所長 | 坂井 良太郎 |
| ・同 総務課長 | 日野 貴之 |
| ・同 担当課長 | 廣元 慶太郎 |
| ・同 担当課長 | 来本 雅之 |

4 議事

（1）令和6年度における各部会の協議内容とその結果について（報告）

事務局：【資料1に基づき説明】

斎藤：建造物部会としての話となるが、数年後に二の丸御殿の全体工事が開始する。明治以降の二条城の歴史の中で重要な局面となる。

保存修理工事については、これまでの長い経験があるので心配はしていない。耐震診断・設計について、私と林委員（建造物部会）で部会の分科会を開き確認している。度重なる大震災により耐震基準が強化され、一方で耐震診断の手法はコンピューター技術の革新や新たな知見により複雑化していて、従来よりも詳細な検討が求められている。

二の丸御殿の屋根は現在は本瓦葺きであるが、当初はこけら葺きであった。土置きの本瓦葺き屋根は極めて剛性が高く、耐震を考慮すると剛性の低いこけら葺きに戻した方が有利となる。しかし、市街地火災時の飛び火等のリスクを考慮して本瓦葺のままとする方針となっているので、そのことを前提に耐震診断・構造補強を検討している。

(2) 令和7年度における各部会の分担事項について（議題）

事務局：【資料2に基づき説明】

村 上： 令和7年度の分担の中で、「(6) 重要文化財（建造物）本丸御殿公開整備事業 ア 空調設備」と「(9) 国宝・重要文化財（建造物）の保存管理 イ 虫・獣害対策」については、障壁画部会でも状況を把握しておく必要があると考えるため、障壁画部会でも（報告）として分担に入れていただきたい。

事務局： 承知した。他の部会での協議内容について、障壁画部会へ報告すべき内容は報告するようにする。分担表は修正する。

座 長： 他に意見はないか。

なければ、「(6) 重要文化財（建造物）本丸御殿公開整備事業 ア 空調設備」と「(9) 国宝・重要文化財（建造物）の保存管理 イ 虫・獣害対策」について、障壁画部会でも（報告）とするよう修正し、R7年度の各部会の分担を承認することとする。

(3) その他（報告）

事務局：【資料3に基づき説明】

村 上： 展示収蔵館の入城者数はどのような推移となっているか。

事務局： 春夏秋冬4回開催し、合計240日間で、令和5年度は64,626人、令和6年度は71,577人と増加している。なお、コロナ禍の間は、年間2万人程度であった。

座 長： 展示収蔵館に限らず、入城者数が増加したことによる公開マナーの変化はあるか。

事務局： 入城者が増えれば、比例してそれなりにリスクはある。

斎 藤： 「元離宮二条城国宝・重要文化財（建造物）等保存活用計画」では、文化財の価値や魅力の発信だけでなく、伝統文化・伝統芸能・匠の技・伝統産業に触れる機会を設けると記される。この活動計画をもっと積極的に実践することを期待している。

奥 : 二の丸御殿については、基本計画を策定し、数年後に工事をスタートすることになる。6棟全てが見られない期間は無いとの説明があったが、観覧者の減少を最小限に抑えるため、工事中ならではの情報発信をしてほしい。工事中は様々な制約があると思う。建築基準法の制約で工事用仮設に見学機能を盛り込むことは難しいと聞いているが、HPや工事見学会等、ソフトの工夫をすれば情報発信は実現できる。同時に、一般の方にも分かり易い形で記録を取り、広く一般の方に見てもらえるよう工夫をしてほしい。

斎藤：文化庁も工事中の情報発信を求めているため、国指定文化財建造物の修理工事では工事用仮設に見学機能を組み込んでいる事例がある。素屋根の中の内部に観覧者用通路を設けると、素屋根に建築物としての性能が要求されるため、私が修理委員をしている京都御所紫宸殿の保存修理計画では、素屋根の中に観覧者用通路を設けることを断念した。素屋根の中の工事の様子が見学できない分、工夫をして高い質での情報発信が出来るよう予算・人をつけていただきたい。

小沢：保存修理の現場は伝統技術のPRの場と成り得る。ライブカメラを付けている事例もある。何らかの形で発信をしてほしい。

小沢：本丸御殿について、公開して半年が経過したが、トラブルや観覧者からのご意見などはあったか。

事務局：観覧者からは、建具や唐紙の質問などをスタッフが受けている状況であり、今後、研修の充実や説明の仕方などを引き続き考えていければと思う。

小沢：本丸御殿は事前予約制かと思うが、時間枠に予約がいっぱいで受け付けることができないといった事象は発生しているか。

事務局：9月の一般公開開始後は、一部予約が埋まっている状況もあったが、12月頃からは、二条城が閑散期ということもあり、観覧者数が減少してきており、予約の空きが全くないといった状況にはなっていない。

座長：工事中の公開について、映像を利用するなど、様々な方法があるかと思うが、うまく過程を伝えていくために、公開のタイミングなども考える必要がある。

小畚：二之丸御殿の模写については、長期間保存しておくことになり、人の目に届かない期間が心配である。

また、本丸御殿については、今後、気温が上がっていくことで、害虫の影響などが心配である。

村上：障壁画の保全のため、御殿の環境調査が行われているかと思うが、実情に合った調査であるかなども含め、当委員会とリンクした形で活用していければと思う。これまでの調査について、障壁画部会でゲストスピーカーとして発表していただいてもよいのではないか。

小沢：本丸御殿のスタッフ用の詰所の新設（令和7～8年度）について、建造物部会としても実施設計に移る前にデザインを把握したい。

事務局：史跡の現状変更許可を取るため記念物部会と協議し進めてきた。次回の記念物部会で決定するため、建造物部会にも報告する。

座長：これまで、埋蔵文化財調査等、場所の検討も含め協議してきた。観覧客から見える場所ではない。

小沢：元離宮二条城の防火について、外国人観光客の増加を踏まえ、避難誘導の外国語対応を消防計画に盛り込むなど検討いただければと思う。

斎藤： MICE 利用について、単なる場所貸しとならないよう「なぜこの場所で行うのか」、体験した方が二条城の価値を感じ、発信していただけるような観点で事業を行うことを引き続き念頭に置いていただきたい。

今後、MICE 等で本丸御殿御常御殿 2 階を利用される際は、急な階段があることから、利用者の安全面、また、建造物への影響に気を付けていただき、利用いただければと思う。

事務局： イベントの内容や利用者の性質等も念頭に置きながら事業を実施していければと思う。また、今年度から新たに MICE プランで利用できるようになった本丸御殿については、これまでの前例がないことから、利用時は特に注意するよう意識する。

座長： 本日の様々な意見については、各部会で議論を行えばと思う。

以上